

令和3年度(令和2年度実施)公立学校教員採用選考試験の実施方法のポイント

結果概要

文部科学省では、67都道府県・指定都市教育委員会及び大阪府豊能地区教職員人事協議会が実施した公立学校教員採用選考試験の実施方法について、毎年度、調査を行っており、このたび、令和2年度に実施された令和3年度採用選考の実施方法を取りまとめ、公表。

○特別の選考の実施状況(／68県市) ※カッコ内は前年度の数値。

※「特別の選考」には、一部試験免除、加点、特別免許状を活用した選考、その他の特別選考を含む。

英語の資格等	:63県市(62県市)	スポーツの技能や実績	:43県市(46県市)
芸術の技能や実績	:22県市(22県市)	国際貢献活動経験	:39県市(36県市)
民間企業等経験	:56県市(50県市)	情報処理技術等の資格	:10県市
教職経験	:68県市(64県市)	前年度試験での実績	:49県市(45県市)
複数免許状の所持	:49県市(44県市)	いわゆる「教師養成塾」生	:11県市
博士号取得	:9県市	臨床心理士、公認心理士等	:11県市

○実技試験の実施状況(／68県市) ※カッコ内は前年度の数値。

※令和3年度採用選考試験においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、実施を取り止めた自治体が多数。

【小学校】	音楽	:16県市(35県市)	図画工作	:1県市(4県市)
	体育	:14県市(45県市)	外国語	:22県市(26県市)
【中学校】	音楽	:58県市(68県市)	美術	:56県市(66県市)
	保健体育	:57県市(67県市)	英語	:57県市(68県市)
【高等学校】	音楽	:35県市(44県市)	美術	:36県市(41県市)
	保健体育	:46県市(55県市)	英語	:48県市(58県市)

○受験年齢制限 ※カッコ内は前年度の数値。

令和3年度採用選考において、岩手県、福島県、山梨県、香川県、愛媛県、佐賀県、大分県、鹿児島県、京都市が新たに緩和を実施

・制限なし	:47県市(41県市)	・51歳～58歳	:1県市(1県市)
・41歳～50歳	:18県市(23県市)	・36歳～40歳	:2県市(3県市)

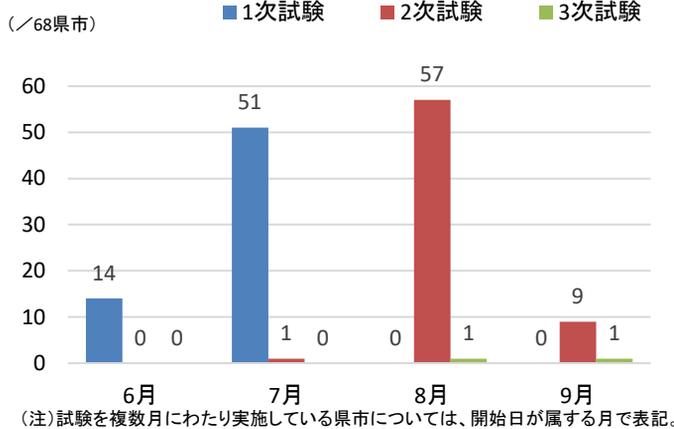
調査結果を踏まえた文部科学省の今後の対応

- ✓ 現在各教育委員会において行われている教員採用選考試験における取組について、特に多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築に向けた観点での特別な選考について、広く知見を共有し、選考試験の改善を促していく。
- ✓ 加えて、令和3年3月より行われている中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方特別部会」での議論を踏まえ、教師の採用における改善策について、実効性のある方策を検討し、実施していく。

1. 試験実施時期、採用説明会・採用選考試験の実施場所(第1・2表より抜粋)

- 多くの県市では、7月に1次試験、8月に2次試験を実施。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、採用説明会は中止またはオンラインで実施が多い。
- 自らの都道府県外において採用説明会や採用選考試験を実施する県市は前年に続き増加。

図1 試験実施時期



採用選考試験の出願期間(／68県市)

- 出願開始は4月が多く、締切は5月までの県市が多い。

	3月	4月	5月	6月
出願開始日	2	40	26	0
出願締切日	0	3	55	10

採用説明会の実施場所(／68県市)

- ①自らの都道府県内において実施 : 39県市 (67県市)
- ②近隣の都道府県において実施 : 21県市 (46県市)
- ③近隣の都道府県以外の主要都市において実施 : 10県市 (37県市)
- ④オンラインにて実施 : 25県市

(注) カッコ内は前年度の数値。

(参考) オンラインにて採用説明会を実施した県市 :

青森県、岩手県、宮城県、山形県、埼玉県、千葉県、山梨県、長野県、愛知県、三重県、大阪府、鳥取県、島根県、岡山県、徳島県、愛媛県、さいたま市、千葉市、横浜市、名古屋市長崎市、神戸市、岡山市、熊本市、豊能地区

採用選考試験の実施場所(／68県市)

- 自らの都道府県外でも実施 : 17県市 (14県市)

(注) カッコ内は前年度の数値。

(参考1) 今年度より新たに実施場所を増やした県市 :

青森県、島根県、愛媛県、宮崎県

(参考2) 今年度実施場所を減らした県市 :

長崎県、横浜市、川崎市

2. 特別の選考の実施状況(第6表より抜粋)

- 英語の資格等や民間企業経験などを加味する特別の選考を実施する県市が増加。
- 特に、教職経験を加味した特別の選考は全自治体で実施。
- 情報処理技術等や臨床心理士、公認心理士等の専門資格を加味した選考も行われている。

特別の選考の実施状況(／68県市)

- 英語の資格等 : 63県市 (62県市)
- スポーツの技能や実績 : 43県市 (46県市)
- 芸術の技能や実績 : 22県市 (22県市)
- 国際貢献活動経験 : 39県市 (36県市)
- 民間企業等経験 : 56県市 (50県市)
- 情報処理技術等の資格 : 10県市
- 教職経験 : 68県市 (64県市)
- 前年度試験での実績 : 49県市 (45県市)
- 複数免許状の所持 : 49県市 (44県市)
- いわゆる「教師養成塾」生 : 11県市
- 大学・大学院推薦 : 32県市
- 教職大学院修了 : 13県市
- 博士号取得 : 9県市
- 臨床心理士、公認心理士等 : 11県市

(注1) カッコ内は前年度の数値。

(注2) 「特別の選考」には、一部試験免除、加点、特別免許状を活用した選考、その他の特別選考を含む。

今年度より新たに特別の選考を実施した県市

- 英語の資格等 : 福岡市
- 国際貢献活動経験 : 北海道、島根県、徳島県、札幌市
- 民間企業等経験 : 新潟県、山梨県、岐阜県、島根県、大分県、岡山市
- 教職経験 : 青森県、岐阜県、長崎県、岡山市
- 前年度試験での実績 : 宮城県、秋田県、神奈川県、岐阜県、静岡県、長崎県、宮崎県、静岡市
- 複数免許状の所持 : 北海道、秋田県、京都府、宮崎県、札幌市、川崎市

(参考) 今年度特別の選考を廃止した県市

○スポーツの技能や実績 : 岐阜県、堺市、岡山市

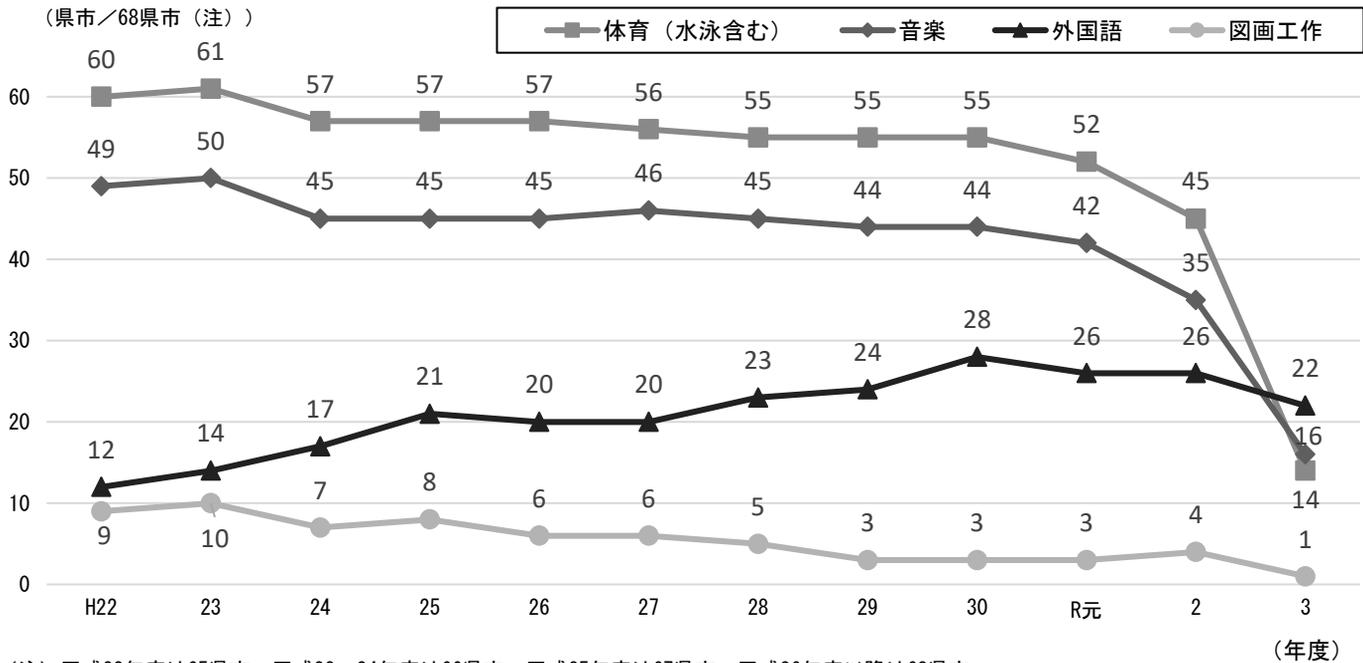
○国際貢献活動経験 : 大阪府

○前年度試験での実績 : 大分県、仙台市、大阪市、岡山市

○複数免許状の所持 : 栃木県

3. 1. 実技試験の実施状況－小学校(第3表より抜粋)

図2 実技試験の実施状況【小学校】



(注) 平成22年度は65県市、平成23・24年度は66県市、平成25年度は67県市、平成26年度以降は68県市。

前年度実技試験を実施したものの今年度実技試験を実施しなかった県市とその理由

- 体育（水泳含む）：北海道、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、栃木県、富山県、福井県、山梨県、岐阜県、三重県、京都府、鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、高知県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、沖縄県、札幌市、仙台市、静岡市、浜松市、京都市、神戸市、岡山市、広島市、豊能地区
- 音楽：宮城県、秋田県、栃木県、富山県、福井県、岐阜県、三重県、京都府、広島県、徳島県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、沖縄県、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、豊能地区
- 外国語：群馬県、大阪市
- コロナ感染拡大防止が第一の理由である。受験者の安全を確保し少しでも接触を避けるために廃止に踏み切った。免許取得の段階で音楽・体育の実技が担保できているという考えも後押ししている。（音楽・体育）
- 他県市の動向も見ながら受験者の確保と負担軽減に鑑み廃止した。これまでに実技として実施したマット運動は、初期研修等で担保している。（体育）

等

(参考) 今年度新たに実技試験を実施した県市

○外国語：群馬県、大阪市

3. 2. 実技試験の実施状況－中学校・高等学校(第3表より抜粋)

実技試験の実施状況【中学校】（／68県市）

- 音楽：58県市（68県市）
- 英語：57県市（68県市）
- 保健体育：57県市（67県市）
- 美術：56県市（66県市）

(注) カッコ内は前年度の数値。

実技試験の実施状況【高等学校】（／68県市）

- 英語：48県市（58県市）
- 保健体育：46県市（55県市）
- 音楽：35県市（44県市）
- 美術：36県市（41県市）

(注) カッコ内は前年度の数値。

4. 面接試験、作文・小論文、模擬授業、場面指導等の実施状況(第4～6表より抜粋)

面接試験の実施状況 (／68県市)

- 実施時期
 - ・1次試験で実施 : 25県市 (39県市)
 - ・2次試験で実施 : 65県市 (66県市)
 - ・3次試験で実施 : 2県市 (3県市)
 - ・1次・2次両方で実施 : 22県市 (38県市)
 - ・2次・3次両方で実施 : 2県市 (2県市)
- 面接方法
 - ・個人面接を実施 : 68県市 (68県市)
 - ・集団面接を実施 : 28県市 (46県市)
 - ・個人・集団両方を実施 : 28県市 (46県市)

(注) カッコ内は前年度の数値。

その他試験の実施状況 (／68県市)

- 模擬授業 : 41県市 (49県市)
- 作文・小論文 : 33県市 (43県市)
- 適性検査 : 29県市 (41県市)
- 場面指導 : 32県市 (37県市)
- 指導案作成 : 7県市 (13県市)

(注) カッコ内は前年度の数値。

5. 大学院在籍者・進学者に対する特例の実施状況(第7表より抜粋)

大学院在学者・進学者に対する特例の実施状況 (／68県市)

- 特例を実施 : 66県市 (67県市)
- 特例の実施内容
 - ・名簿登載期間延長 : 62県市 (61県市)
 - ・一部試験免除 : 6県市 (4県市)
 - ・その他の特別の選考 : 4県市 (5県市)

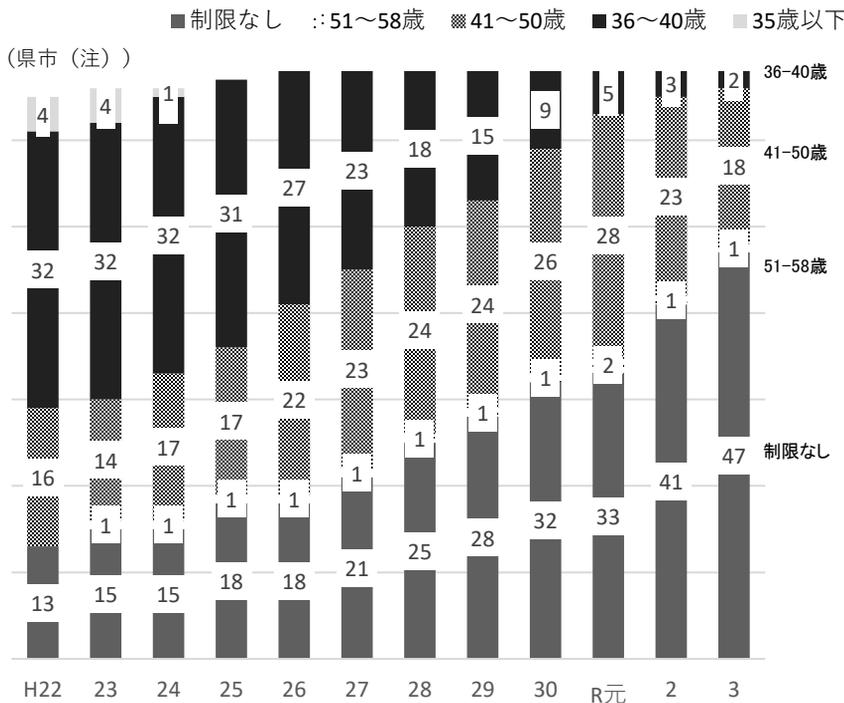
(注1) カッコ内は前年度の数値。

(注2) 「大学院在学者・進学者に対する特例」とは、教職大学院を含む大学院在学や進学を理由に採用を辞退した者に対し、採用候補者名簿登載期間の延長や次年度以降の一部試験免除・特別の選考など特例的な措置を行うこと。

6. 受験年齢制限の状況(第8表より抜粋)

○「制限なし」が47県市で、前年度の41県市から増加しており、年齢制限の緩和が進んでいる。

図3 採用選考における基本的年齢制限



今年度に変更のあった県市

県市名	前年度	今年度	基本的年齢制限
岩手県	49	→	制限なし
福島県	50	→	制限なし
山梨県	49	→	制限なし
香川県	44	→	49
愛媛県	49	→	制限なし
佐賀県	49	→	制限なし
大分県	50	→	制限なし
鹿児島県	40	→	49
京都市	44	→	49

(注1) 平成22年度は65県市、平成23・24年度は66県市、平成25年度は67県市、平成26年度以降は68県市

(注2) 「基本的年齢制限」とは、一般選考の中心的な校種(小学校や中学校)における年齢制限

(注3) 「制限なし」は各年4月1日現在で満59歳以下の者を対象